

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 10 月 1 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	前田 玉青

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県徳之島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
徳之島における野生化ネコの食性研究の成果報告
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 8 月 22 日～平成 30 年 8 月 25 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
NPO 法人徳之島虹の会
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の渡航では、私の卒業研究成果を地元の方々に発表しました。私の研究により、徳之島で希少種を捕食するノネコは、実は人間からの餌やりを主食としており、餌やりが間接的に希少種の個体数を減少させている可能性を示唆しました。なので、地元の方々にこの結果を伝えることは、ネコ管理の発展の上で非常に重要であると考え、今回の滞在を計画しました。報告会の企画は虹の会にご協力いただき、二回行いました。1 回目は天城町市役所にて、主にネコ管理に携わる行政の方々に報告・議論しました。2 回目は一般向けで、虹の会のメンバーの方々ほか、地元の学生さん等が併せて 30 人ほど集まりました。あまり大きな報告会ではありませんが、この事実が地元で共有され、ネコの適正飼養・餌やりの禁止が広がるきっかけになると良いと思います。一方、行政の方々からはネコ罠設置の効率化の方法等、より実践的な質問を多く受けましたが、私の研究ではそこまで提言できる内容ではなかったため、不甲斐なくも感じました。今後、ノネコ研究・ネコ管理事業双方が発展して行くことを願います。
また、中学生の夏休み自由研究のまとめの手伝いもしました。虹の会が主に企画をしており、伊仙町の中学生 5 人が山や海に観察に行き、その研究成果をまとめているところで、論文製作経験のある私が科学的研究のまとめ方のアドバイスをしました。
他にも、ネコの生態調査のためにトラップカメラの回収・交換作業やナイトセンサスの手伝いもしました。ノネコは直接観察できませんでしたが、トラップカメラにはネコが林道沿いに山に出入りする様子が映っていました。私の研究で予測されたとおり、集落と森林をネコが行き来している間接的な証拠になりうると感じました。


Fig 1. オビトカゲモドキ
Fig 2. 天城町役場での報告会
6. その他 (特記事項など)
謝辞：現地での報告会の企画等に多大なるご協力をいただいた徳之島虹の会のみなさま、風戸さんに感謝申し上げます。また、報告会に集まってくださったみなさまもありがとうございました。